

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

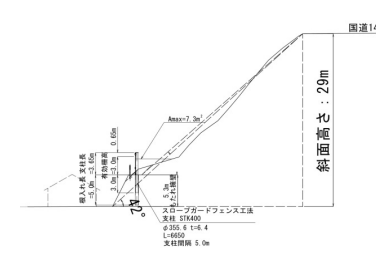
事業名	急傾斜地崩壊対策等		路河川名等	大口沢		
事業毎の通番	5	市町村名	安曇野市	箇所名(ふりがな)	大口沢(おおぐちざわ)	
事業目的	当箇所は最大勾配42度、がけ高さ最大29mの急斜面で、保全対象として人家7戸(内特別警戒区域内人家5戸)及び地域防災計画に位置づけられた避難所である大口沢地区公民館が存在する。また、一級河川濁沢川および主要地方道安曇野インター堀金線、安曇野市道2級16号線が保全対象となる。 当該箇所は、一部擁壁工とロックフェンスによる整備を行っている箇所もあるが、土砂捕捉能力が不足しており、斜面崩壊に対応が出来ない状況である。このため、未整備箇所を含めて、早急に対策を講じ民生の安定を図るものである。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)	事業実施の根拠法令等	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律			
関連する事業、計画等						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	保全対象 民家7戸 公民館(避難所)1戸 一級河川 濁沢川 主要地方道安曇野インター堀金線、安曇野市道豊科2級16号線					
着手年度	平成30年度	事業期間	4年間	事業費(千円)		
完成年度(見込み)	平成33年度	費用対効果	2.3	国庫	その他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	崩壊土砂防止柵工 L=185m H=3m 法面保護工 L=30m A=475m <sup>2</sup>			250,000	112,500 25,000 101,250 11,250	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	崩壊土砂からの家屋、避難所の保全 崩壊土砂からの、一級河川、県道・市道の保全				
	間接的効果(定量的・定性的)	一級河川の保全による下流への土石流などのリスクの削減 県道・市道保全による、災害時等の物流の確保				
評価の視点	必要性	○人家戸数:7戸 ○公共施設数:2箇所 ○災害時要援護者施設の有無:無し ○避難場所、避難路の有無:有り			評価	B
	重要性	○過去の災害履歴:災害履歴地 ○交通遮断による地域経済への影響:影響度 大 ○地域防災計画上の位置づけ:位置付けあり			評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C):B/C=2.25 ○事業期間:4年間(H30~H33) ○工法等の比較検討:土砂捕捉対策工について検討あり			評価	A
	緊急性	○斜面の高さ:平均高さ:23m(Hmax.:29m) ○斜面平均勾配:平均勾配:37°(max.:42°) ○地質:強風化岩 ○遷急線、谷地形、凸地形:斜面に凸凹有り			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有:今年度説明会を予定 ○地域の取り組み:安曇野市から要望有り ○地域の合意形成:今年度合意形成を図る予定 ○住民との協働:今年度「地域特性に配慮した警戒避難体制づくり」に関する住民懇談会を実施する			評価	A
	部局意見	地域防災計画に記載された避難所が警戒区域に含まれる。近隣に避難所の移転適地がなく、施設整備の重要性が高い。			採択状況	総合評価 ○ A
技術管理室意見	部局の意見を適当と認める。					

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)

平面図



断面図



【整備の必要性がわかる状況写真等】



①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当箇所は最大勾配42°、がけ高さ平均23m、がけ高さ最大29mの急斜面で、保全対象として人家5戸(内特別警戒区域内人家3戸)、地域防災計画に位置づけられた避難所である大口沢地区公民館が存在する。当該箇所は過去に、豪雨に伴い、斜面崩落が発生しており、風化による侵食も進んでいることから、更なる崩壊の危険性が高い。	
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成28年4月安曇野市から県に要望あり。	
③事業説明等の経緯	「地域特性に配慮した避難体制づくり」における地元との懇談会の中で、事業について説明済。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連		
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	詳細設計において、環境及び景観に配慮する予定。	
⑥地域活性化への影響と配慮		
⑦その他	H18年土砂法指定	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 18' 19" 東経:E 137° 57' 29"

事業概要説明図表

事業周辺環境